

第1回 日本風景街道 未来ビジョン共創会議 議事概要

1. 日時：令和8年5月25日（月）15：00～17：00

2. 場所：合同庁舎3号館1階道路局A会議室およびWeb併用会議

3. 主な意見：

- ・農業政策等の第一次産業と風景街道の取組をいかにつなげるか。どのような地域を目指すか、手段としていかに風景街道を使えるかの順で考えることが必要。
- ・ボランティアベースではなく、風景街道の活動をしている人たちへの利益還元が不可欠。風景街道のインタープリテーションでは、地域の経済的／環境的な持続可能性の位置付け方がポイント。
- ・道路管理者は道路空間の中だけの議論になりがちであるが、昨年の道路法改正により基礎理念の記述が大きく変わったことは、絶好の機会。
- ・これからの風景街道の価値や意義をしっかりと確認することは、とても大事。一方、少し心配なのは「連携型」と「推進型」の分かりにくさ。また、連携は重要であるが、ルートによってはプレッシャーになってしまうことを懸念。例えば、「地域共創型」「政策連動型」のような表現が適切か。
- ・各ルートでやりたいことは千差万別。自主性を担保しながら、いかにフレキシブルな支援の仕組みが考えられるか。従前からの地域活動と風景街道との連携を、地域の実情を踏まえてうまくまとめながら支援する仕組みが重要。
- ・風景街道の意義は、観光や二地域居住など利用する人を増やすことと、保全等に関わる人を増やすこと。目標としての KPI 設定が重要。達成できなかったアウトプット目標や、アウトカムが見えない現状を考慮することが必要。
- ・他省庁の補助制度をうまくつなげて、取組を継続させることが大切。
- ・景観を形成する営みに関わる人をどうするか、いかに周辺の点を拾って、いかに価値のある線につないでいくのが重要。
- ・風景街道の価値とは何か、とは大事な指摘。プライスレスな地域の人々の想いをいかに共感していただくか、そのことこそがインタープリテーション。風景街道や地域づくりの目的に直結する部分をいかに考えるかは、きわめて大事。
- ・インタープリテーションは発掘プロセスも大事。今回をきっかけに、地域外の人にも入ってもらって、地域固有の資源や価値を再認識する場になると良い。
- ・風景街道の活動と地域づくりをいかにつなげていくか。考えること、集める情報、配慮事項など、検討フレームを考える方向もあり得る。
- ・風景街道がある地域は一定の理解があるかもしれないが、これから新しくは取り組みづらい気がしている。そこで、風景街道はもっと武器を持った方が良い。

- ・ KPI で言えば、現在の 149 ルートは劇的には増えていかないと思うが、質の向上をやっていききたい。災害発生後の復興段階でも、風景街道というつながりを使って地域のまちづくりを活性化していくことにつなげていきたい。
- ・ 10 周年目の提言以降、ほとんど事が進んでいない。今後 10 年間で何をするのかイメージの擦り合わせが必要。目指すところを絞りながら議論していきたい。
- ・ 各ルートの活動は様々であるが、根本は一致している。住んでいる地域、関わりのある地域、愛着のある地域をなんとか良くしたい。その根っこにあるところをいかに実現するか、それに向けた武器は何か、を検討することが重要。
- ・ 風景街道の KPI 設定について議論が必要。沿線や周辺地域がどのような状態になれば良いか、ミッションを形づくるのが大事。資料 p.5 右下の図をアップデートすること、やることより目指すことがビジョンとして見えてくると良い。
- ・ 長く活動してきた方もおり、なかなか変えづらいところもある。いろいろな方向性を示すやり方もある。
- ・ 資料 p.5 の図は、若者受けも民間企業受けもしないように感じる。今回、新しい視点を含めて、アップデートに向けて議論していきたい。
- ・ 20 年前に比べて一番変わったのは、環境への意識。新しい価値観も入れないと世代交代も難しい。
- ・ KPI については、これからの 10 年は数より質が必須。風景街道の取組で、このくらい賑わいが生まれた、このくらい地域が変わった、お金の流れが変わった、という点が重要。全国で 2~3 事例をしっかりとつくれると、後続する地域が出て、結果として数が増える理想的なサイクルになるのではないか。
- ・ 地方ごとに異なるルートのカバー面積など、地域特性を踏まえた検討が必要。
- ・ アメリカでは、公園管理局が解説看板のガイドラインを策定している。日本では案内看板が多いため、風景街道らしい解説看板のガイドラインのようなものができるとう良い。
- ・ 数ではないと言いながら、この 10 年間で増えていないということは、風景街道の価値が十分浸透していない、という見方もできる。ただ、北海道のシーニックバイウェイなどをみると、この活動があったから地域づくりに関わる人たちが確実にいらっしゃる、その価値はものすごく重い。
- ・ 風景街道があるときと無いときで何が違うのか、無いと何が困るのか、を整理するのが良い。苦しんでいるルートもある中で、149 ルートがポジティブになれるような価値の提言ができるとう良い。
- ・ 10 年目の提言に向けた有識者懇談会で、当時 140 くらいあったルートのうち、3 割強がほぼ実質的な活動が無いという結果もあった。なかなか難しい状況にあることも事実。ただ、伴走支援はあったものの物質的な支援がない中でも、ルートが増え続けていること自体は、非常に重要。
- ・ これをさらに増やし、全国が塗りつぶされるころまで頑張っていこう、としたとき、

何をどのようにすれば良いか。今日は、どちらかというとな抽象的な議論ばかりになってしまったが、いかに皆さんに楽しんで、わくわくしながら参加していただけるか、そのためのツールをきちんと議論することが大事。

- その点では、活動資金やビジネス化についても考えていかねばならない。
- ワークショップでは、持続可能な社会が実現した将来に選ばれる地域とは何か、今の価値観では地域間競争が地域の疲弊を助長しかねない、という点を初めにインプットする必要がある。
- 外部からの目線も大事であるが、当事者目線も大事にしたい。風景街道は現場まかせの良さもあるが、苦勞しているルートもあるので、この機会に伴走や支援の仕組みに対する当事者意見も聞けると良い。大学ワークショップに組み込むかは、検討が必要。
- テーマ(案)が、各論ベースの印象。風景街道は知らないとか、風景街道の価値は何だ、など考えてもらい、丁寧に紐解くような議論を重ねると良いものが出てくるのではないか。

以 上